

『命の一本桜プロジェクト』

9月29日（木）に、アトリエ太陽の子の中嶋洋子先生をお招きして、『命の一本桜プロジェクト』を行いました。

子どもたちは、昨年度から『はるかのひまわり絆プロジェクト』を実施しています。『はるかのひまわり』は、阪神淡路大震災で亡くなった加藤はるかさんにちなんだひまわりです。子どもたちは、阪神淡路大震災を風化させないように、そして、命の尊さを実感できるようにと、『はるかのひまわり』を育てています。

中嶋先生には、この『はるかのひまわり』の入手においてもお世話になりました。

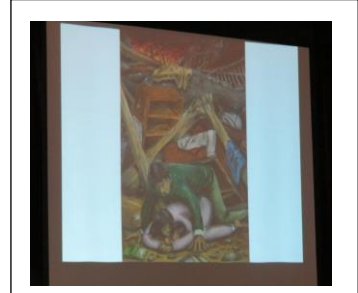
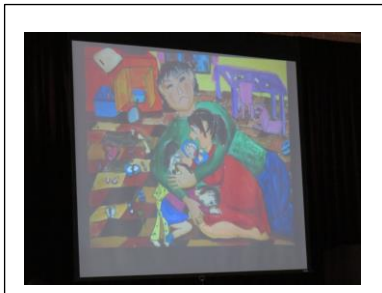
中嶋先生は、阪神淡路大震災の被災者です。大切な生徒を、阪神淡路大震災で亡くされました。『命の尊さ』や『生きていること』を、絵画を制作しながら子どもたちに訴えられます。

子どもたちには、熱い思いで語りかけてくださる中嶋先生の授業をぜひとも体験してもらいたいと、企画いたしました。『命の一本桜プロジェクト』が実施できて本当によかったです。



9月なのに、どうして桜？
 それは、一年中散らない桜、地震がきても散らない桜をみなさんと描きましょう。

突然やってくるのが自然災害。生き残ったのは、あの時のことを語らなければならないのです。



★1995年1月17日、午前5時46分。当時1年生のひとみちゃんと年中のあかねちゃんのお話をしてくださいました。ひとみちゃんとあかねちゃんは、中嶋先生の教え子です。地震によって、大切な命を奪われてしまったのです。

お母さんが子どもを抱きしめ、その上にお父さんが覆いかぶさり家族を守りながら亡くなられたのです。震災では、どのご遺体も、父が子を、母が子を抱きしめて亡くなっていたそうです。長田の町は、三日三晩燃え続けました。



お母さんは、元気だけれど、足がはさまって逃げることはできませんでした。火の手はどんどん近づいてきます。その時、お母さんは子どもたちに何と言ったでしょうか。そして、子どもたちはどんな行動をとったでしょうか。

お母さんを置いて逃げられない！
お母さんは、鬼の形相で「逃げなさい」と言いました。
「どう？あなたは、お母さんを置いていけますか？」

★今ある命は、当たり前ではありません。地震は突然です。（地震は）突然来ました。（地震は）突然襲ってきました。今まで当たり前だと思っていた命でしたが、命は尊いのです。命は当たり前ではありません。大切にしてほしいです。たくさんの方が、「死にたくない、死にたくない」と言っていました。

生きたくても生きられなかった人の分、その人たちの分まで、今を一生懸命に生きてください。

胸に手を当ててください。心臓がドクン、ドクンとしていることがわかりますか。私たちは、生きているのです。その生きているパワーを画用紙いっぱいに注入しましょう。



みんなで協力しながら、命の一本桜を完成させることができました。心に残る一日になりました。

